

## 1. 病棟の具体的な目標と評価

## 1)安全で質の高い看護を提供する

- (1)看護手順を遵守する (2)病棟勉強会を計画・実施する (3)急変対応シミュレーションを実施する  
(4)倫理カンファレンスの開催 (5)院内規定に沿った個人情報保護を厳守する

病棟勉強会を6回/年実施し、急変シミュレーションは対象者が全員参加できた。また、6回実施した倫理カンファレンス、デスカンファレンスでは、がん看護認定看護師も介入し、科学的・倫理的視点で思考する機会となり、看護の質とは何かを考えることができた。

## 2)病院経営に参画する

- (1)病床利用率:85%以上の確保 (2)物品紛失の減少 (3)重症度、医療・看護必要度30%以上を確保する  
病床利用率を上げるため、各診療科医師と相談し、効率的な病床管理に努め、前年度86.6%から88.6%へ上昇した。物品の紛失は日々の定期的な定数チェックを行ったが、物品紛失事例が3件あった。  
引き続き効率的な病床管理のもと患者数確保に努めると共に、物品紛失などによる損失を無くすように取り組んでいく。

## 3)患者の視点に立った医療安全を推進する

- (1)インシデントの事例を振り返り、マニュアルに基づいた対策を立て再発防止に努める  
(2)6Rの徹底 (3)スタンダードプリコーションを徹底し、アルコールジェル使用量が向上する  
(4)業務の効率化と職場体質改善を行う

BIPAP装着患者のMDRPU事例があり、皮膚排泄ケア認定看護師に介入を依頼し、カンファレンスを行った。観察不足や、皮膚トラブル発生時の対処の遅れ、看護師間の情報共有の方法などの問題点が抽出された。看護基準を基に対策を実践に結び付け、その後同様の事例は発生していない。今後も事例を振り返り、看護基準に基づき、適切かつ確実な技術の提供が患者の安全につながるよう取り組んでいく。

## 4)専門職としての能力開発に努める

- (1)病棟勉強会の実施・年度計画の作成 (2)看護研究の発表 (3)多職種カンファレンスへの参加・開催  
看護研究を国立病院看護研究学会、院内発表会で1例ずつ発表した。研究をまとめる中で看護のあり方を検討でき、それを発表することで自分たちの行っている看護に自信と誇りを持つことに繋がったと考える。また、定期開催の多職種カンファレンスに参加したことで、連携に対する関心が強まり、訪問看護ステーション協議会主催の在宅看護体験研修に参加するスタッフがいた。今後もスタッフ個々の強みを引き出し能力開発に繋がるよう支援する。

## 5)活気ある職場、元気のある職場づくりを推進する

- (1)リフレッシュ休暇の取得を計画的に行う (2)PNSを推進する

全スタッフがリフレッシュ休暇を計画的に取得した。平日日中は全てPNSが導入でき、業務中の相談相手の明確化や、看護ケア時の個人負担の軽減に繋がった。病棟内で「ありがとう」という言葉が増加しているとスタッフも感じており、より良い職場づくりを推進することができた。

## 2. 病床運営状況

表 1 令和元年度 病床運営状況

収容可能 病床数(床)	診療科名	月平均		平均在院 患者数(人)	平均在院 日数(日)	病床利用率 (%)	病床稼働率 (%)
		新入院患者数 (人)	退院患者数 (人)				
48	耳鼻科・眼科・皮膚 科形成外科 総合診療内科・	115.8	148.3	42.4	9.8	88.4	98.5

重症加算病床		有料個室		延べ入院患者数 (人)
病床数(床)	稼働率(%)	病床数(床)	稼働率(%)	
3	100.2	5	96.8	1390

延べ緊急入院患者数 (人)	延べ転入患者数(人)	延べ退院患者数(人)	延べ転出患者数 (人)	死亡数者(人)
295	489	1871	90	24

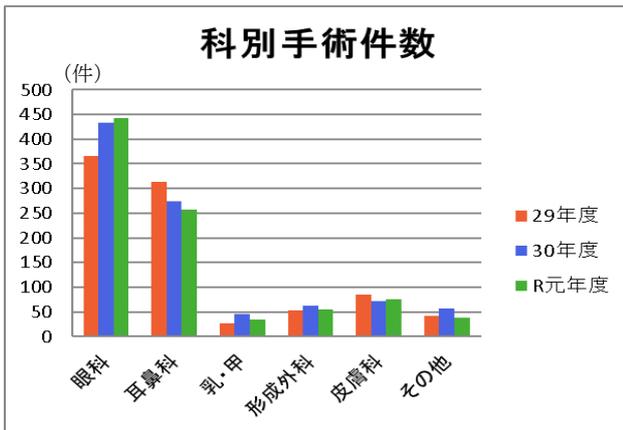


表 2 令和元

	件数(件)	割合
耳鼻科	257	31%
眼科	442	51%
皮膚科	75	9%
形成外科	55	7%
その他	72	9%
合計	901	

図 1 令和元年度 科別手術件数

## 3. 看護体制

表 3 令和元年度 看護体制

配置人数(人)	看護方式	夜勤体制(準:深)
36	固定チームナーシング・PNS®	4:3

## 4. 看護統計

### 1) 重症度、医療・看護必要度

表 4 令和元年度 一般病棟 重症度、医療・看護必要度 I

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
基準を満たす患者の割合(%)	36	38.7	37.9	35.2	35	43.5	41.9	35.5	34.2	33.5	31.2	32	36.2

## 5. 看護研究発表・研究会発表

### 1) 令和元年度 看護研究発表

発表演題名	発表者	学会名	開催地	開催日
誤嚥性肺炎に向けた口腔ケアの実施状況	二階堂 富美乃	第17回国立病院看護研究学会	東京	2019年12月14日
A病棟における症状別口腔ケアマニュアルの検証	國塩 美穂	看護研究発表会	院内	2020年2月8日